

平成27年度第2回喜多方市総合教育会議議事録

1 日 時 平成27年8月20日（木）午後1時34分～午後2時36分

2 場 所 喜多方市役所 第3委員会室

3 出席者

（構成員）	市 長	山 口 信 也
	教育委員会委員長	関 口 高 志
	教育委員会委員長 職 務 代 理 者	山 口 良 子
	教育委員会委員	武 藤 修 吉
	教育委員会委員	遠 藤 一 幸
	教育委員会教育長	芳 賀 忠 夫
（事務局）	企 画 調 整 課 長	渡 部 孝 一
	企画調整課長補佐	遠 藤 紀 雄
	企画調整課長補佐	大 瀧 浩 信
	兼政策調整室長	生 江 紀 彦
	企 画 調 整 課 主 査	外 島 正 弘
	教 育 部 長	大 塚 哲 弥
	教育総務課長	川 崎 利 彦
	教育総務課長補佐	佐 藤 寅 記
	学 校 教 育 課 長	原 恵 美子
	生 涯 学 習 課 長	武 藤 孝
	文 化 課 長	鈴 木 善 信
	中 央 公 民 館 長	

4 協議事項

- (1) 学校教育、生涯学習及び学術文化の振興に関する課題について
- (2) 喜多方市教育大綱策定における現状と課題について
- (3) 大綱の策定スケジュールについて

5 内 容

○渡部企画調整課長

皆さん、こんにちは。お忙しいところお集まりいただきまして、ありがとうございます。

ただいまより平成27年度第2回目となります喜多方市総合教育会議を開催させ

ていただきたいと思います。

なお、本日、小島議員から、会議の傍聴について申し出がございましたので、皆様にご報告申し上げます。

それでは、ここから次第に沿いまして進めさせていただきたいと思います。

まず、市長より挨拶をお願いいたします。

○山口市長

公務の関係で時間がおくれまして恐縮だったんですが、まず最初にお許しをいただきたいと思うんであります。

本日は第2回の喜多方市総合教育会議を招集いたしましたところ、教育委員の皆様におかれましては大変ご多用の中、ご出席をいただきましてまことにありがとうございます。また、日ごろから喜多方市の教育の充実のためにご尽力を賜っておりまして、これまた心から感謝を申し上げる次第でございます。

過般になりますが、ご承知のとおり岩手県の矢巾町で中学2年の男子生徒がいじめを苦に自殺という事件が起こってしまいました。いまだ全国では、いじめを受けた子どもの命が脅かされるような深刻ないじめ事件が後を絶ちません。

このような悲しい出来事が繰り返されないように、本市といたしましても重く受けとめまして、教育委員会の皆さんとともに細心の注意を払ってまいりたいと考えておる次第であります。

さて、第2回目となります本日の会議は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律のご承知の改正によりまして、市長において策定することとなりました教育大綱について、課題の洗い出し並びに共有を図るとともに、大綱策定の具体的なスケジュールを確認していただきたいと考えておる次第であります。

教育委員の皆様におかれましては、大綱が本市の実情に応じたものとなりますよう、忌憚のないご意見を賜りますようお願いを申し上げ、私からの挨拶とさせていただきます。どうかよろしくお願いします。

○渡部企画調整課長

ありがとうございました。

それでは、協議事項のほうに移ってまいりますが、配付しております資料のほうをご確認いただきたいと思います。

お手元にきょうの会議の次第と、右上のほうに資料1、資料2、資料3ということで3種類の資料を配付させていただいておりますので、もしなければお申し出いただきたいと思います。大丈夫でしょうか。

それでは、早速、協議事項に移ってまいりたいと思いますが、協議事項につきましては、会議要綱に基づきまして、市長のもとで議事のほうを進行していただきたいと思います。市長、よろしくお願いいたします。

○山口市長

それでは、私のもとで進めさせていただきますので、どうかご協力を賜ります

ようお願いします。座ったままで進めさせていただきます。

学校教育、そして生涯学習及び学術文化の振興に関する課題について、これは（１）であります。このことについて協議をしたいと考えております。

お手元に資料１、２を配付してございますが、前回、第１回の会議において教育委員の皆様方からご発言いただきました本市教育の課題について、学校教育、それから生涯学習及び学術文化の振興の３つの区分に整理いたしました次第でありまして、内容について確認いただきたいと存じております。

まず最初に、事務局から説明をお願いします。

○渡部企画調整課長

それでは、私のほうからお手元に配付させていただいております資料１「学校教育、生涯学習及び学術文化の振興に関する課題について」と題しました資料に基づきまして、確認の意味を含めまして説明をさせていただきたいと思います。

前回ご議論いただいた内容でございますけれども、大きく３つに分けてございます。１つ目、大きなくくりといたしまして「学校教育」というようなことで、３点ございました。

１つ目でございますが、小中学校の適正配置及び児童生徒数の減少を見据えた教育施設、学校環境の整備についてご意見がございました。具体的には、校舎の老朽化への対応、少人数に見合った新たな環境づくり、小中学校の適正配置に配慮が必要だというような意見をいただいたところでございます。

２つ目といたしまして、グローバルな時代を見据えた教育（生きる力をしっかりと育む教育）及び学校経営という意見がございました。具体的には、喜多方独自、喜多方の特徴を生かすことを含めた特色のある学校教育の推進、また、小学校・中学校の一貫教育、学校運営協議会の導入などの検討が必要であるというご意見をいただいたところであります。

３つ目といたしまして、家庭教育の充実がございました。

大きな２つ目といたしまして、生涯学習についてでございますが、１つといたしまして、人づくり指針の市民への浸透、具現化というご意見がありました。

２つ目といたしまして、文化スポーツ施設の整備、具体的には図書館、公民館、市民プールなどというようなご意見がございました。

３つ目といたしまして、公民館の運営体制の検証、充実に対する意見がございました。

大きな３つ目でございますが、学術文化の振興ということで、歴史及び文化の調査、保存、活用についてご意見をいただいたところでございます。以上でございます。

○山口市長

それでは、ただいま整理に関して説明があったわけでありましたが、何かご意見ありませんか。そしてまた、追加等はございませんか。

〔「なし」の声あり〕

○山口市長

それでは、特段なければ、これら貴重なご意見は大綱策定に生かしてまいりたいと存じております。

次に、(2)であります。喜多方市教育大綱策定における現状と課題についてを協議いたしたいと思っております。

このことについては、資料2の「喜多方市教育大綱策定における現状と課題」をごらんいただきたいと思います。

これは教育委員会として、本市教育の現状や課題について、資料1の区分に沿って1から4までの項目に取りまとめたものと伺っております。

つきましては、項目ごとに説明をまず最初に願いたいと思います。では、願います。項目1について。

○関口教育委員長

説明にはならないと思います。前回、所感、1回目で述べましたので、所感の繰り返しになるのかなというふうに思っていますけれども、学校教育の1、2については今事務局のほうから説明のあった整理をされて、文書化されたのがこういうふうになったのかなと思っています。ですから、繰り返しになると思いますが、1については、私も前回、教育環境の整備と学校環境の整備ということで申し上げたんですが、大きな理由はこれからどんどん小中学校の小規模化が進むと。もう一つは、施設が相当老朽化が進んでいるということが大きな原因ですけれども、そのためにこれからは時代に対応した教育施設の整備、改修あるいは新設も含めて整備をすることを検討しなければならないのかなというふうに感じているところです。

それで、施設の整備は、小中学校の適正配置の計画をつくって、その計画に沿って施設の整備を図って学校環境の充実をしていくべきだろうというふうに思います。ですから、順序から言うと適正配置計画をつくるのがまず先かなというふうに思っています。

その配置計画の中では、小学校はどうする、中学校はどうするということになってくると思いますけれども、自分の私見の中では、小学校は旧町村単位に最低1校は必要なのかなと。それは今後の検討の中で変わってくるかと思いますが、小学校は通学に余り負荷をかけないためにはそうならざるを得ないのかなというふうに考えております。これは今後の検討で十分詰めていかなければならないんだろうと思います。

中学校は現在7校あるわけですが、これを何校にするかという部分も再配置計画の中では大変な検討になってくると思いますが、7校のうち7分の4校くらいでいいのかなと私は勝手に思っています。そのうちの1校については、学区フリーの小中一貫の学校あたりができればなというふうに思っているところ

であります。

あと、2点目の「生きる力」と、生涯学習とか、学術文化の民俗芸能の後継者不足が課題だということも載っていますけれども、それに関連してくると思いますけれども、小学校・中学校のときから市民等の社会行事・活動に参加する機会をふやすとか、システム化するまでにはなかなか難しいのかなと思っていますが、そういう将来にわたって喜多方が大好きで、喜多方に残りたいというような子供づくりのために、小中学校のときから市民とのかかわりを持つような行事だとか、あるいは伝統芸能になるべく多くかかわれるような学校経営も必要なのかなというふうに思っています。それが豊かな心、たくましい心、「生きる力」というふうにつながる一つになるのではないかなというふうに考えているところでございます。

説明になりませんが、自分の常日ごろ思っている所感を述べました。

○山口市長

そうしますと、事務局から補足とか何かありませんか。

○大塚教育総務課長

教育総務課長、大塚です。

ただいま関口委員長からお話がありました施設の関係でございます。これにつきましては、老朽化についてはここに記載してあるとおりということでございますけれども、今後どのような対応が必要かということについて、今さまざまな先進事例を参考に、今後やっていくべきだろうと。それがここにあります時代に対応した教育施設、設備を計画的に行うということと考えております。

この中には、この2番目のほうにも関連してきますけれども、今後、社会の変化が激しく、グローバル化が進んでくるということを考えまして、教育施設、設備についてもそのようなものの導入ということを計画していく必要があるだろうということ、それを今後計画していくことが必要ではないかというふうなことを今課題として思っているというようなことでございます。それによりまして、子供たちが安全で潤いのある喜多方で教育を受けたいというような形になっていければという部分が今後施設面では大きな課題というふうに考えているところでございます。

○山口市長

ありがとうございました。そういたしますと、今お話を聞いていますと、項目1と2まで終わったということでいいの。（「関連して2のほうにも少し入っている形です」の声あり）2は全部ではないんですね。

○芳賀教育長

教育長です。

1の安全安心で潤いのある教育環境の整備ということについて、今、委員長のほうからご意見いただきましたけれども、委員長3つおっしゃったと思います。

1 つは、適正配置を踏まえた上での施設整備に取りかかるべきだと。施設設備のほう、緊急的にやらなくてはいけない部分はそうなんでしょうけれども、しかし老朽化等、そういった対応を先にやってしまっていて、例えば後から学校が統廃合になってしまったということになれば、相当の予算を投じて整備した施設が使われなくなってしまうという問題も出てきますので、そういった意味では、委員長がおっしゃったように適正配置の基本的な方向を踏まえて、そしてそれを踏まえた上で施設整備の方向に行くという部分については私も同感だなというふうに思っているところであります。

2 つ目について、委員長おっしゃったことは、具体的な適正配置のあり方ですね。現在の小学校17校、中学校7校について、今後少人数になっていくという状況を見据えたときに、委員長として各地区にはそれぞれの小学校を存続させるべきであるというようにお考えをおっしゃったんですが、そのような考え方も当然あるかと思います。これについては、適正に関して、今後計画を示してまたいろいろな形で議論していくことになりますので、委員長が現在おっしゃったようなことについてはそういった考えもおありなのかなということで私は聞かせていただきました。

3 つ目は子供たちについて、子供たちにもっと社会参加の機会を与えて資質・能力を高めていくべきだとおっしゃったんですが、それについても私は同感であります。ただ、このことについてはきょういただいている資料の1番よりはむしろ2番目の「生きる力」を育む特色ある学校教育の推進のところにかかわってくるのかなということで聞かせていただきました。以上です。

○山口市長

そういたしますと、1の項目についてはこれでいいですか。

2の項目について、全体的な説明とか何かはいいですか。

○芳賀教育長

教育長です。

2 番目についても、第1回目のときに私が日ごろ感じている課題ということで申し上げてきたところです。再度繰り返しになるかもしれませんが、「生きる力」を育む特色ある学校教育の推進ということについては、これは本市の教育課題のみならず、全国の子供たちを育てていくということについて、国の課題でもあります。そういった意味から申し上げますと、再度確認になりますが、やはり本市の子供たちに確かな学力を育む、それから豊かな心を育てていくと。それで市長常々おっしゃっているようにたくましい心身、これら子供たちに育てていくということについてはやっぱり大事なことだなということで再確認をさせていただきたいと思っております。そのためにはいろいろな教育のあり方とか方法があるわけではありますが、もう一度ここで申し上げたいのは、やっぱり地域にはさまざまな地域素材がございます、人材も含めて。ですから、地域の素材等を

積極的に活用した教育ということも大事ですし、それから何よりも、やっぱり子供たち、座学でなくて体験的なもの、経験や体験を重視した教育のあり方が大事だと思っています。

3つ目としては、教育委員会として教育行政の立場から学校に指導・助言はするわけですが、学校が独自に教育活動をダイナミックに展開できるような予算措置のあり方、学校の校長が市の方針に沿ってこれだけの教育を展開したい、だからこれだけの予算をいただきたいと、そのいただいた予算は学校の校長の責任、裁量のもとでダイナミックに使いたいんだという、そういった措置も、無理かもしれませんが、そういったあり方も学校の活力を後押しすることになるのかなというふうに思っているところです。

○山口市長

ありがとうございます。ただいま教育長からございましたように、確かな学力、それから豊かな心をはぐくむ、そしてたくましい心・体、こういったものが「生きる力」につながると。

あと学校でその方針を具現化あるいは目的の達成のための予算措置をとっていくというようなことであります。特に今回の地方教育行政の組織及び運営に関する法律もこの辺を重視しまして、予算については私、よく話を聞くことをお約束いたします。その結果については、これは予算の枠もあるものですから、もう一つは予算の体系とか市の講じようとする重点的な施策体系等を、その中でもやっぱり教育というのは百年の計でありますので、その点は重視してまいりたいと考えております。

ほかにありませんか。

それでは、2の項目については、このようなことで整理をいたすということでご了承置きいただきたいと思います。

それでは、ほかになければ、項目3について、まず最初に説明をお願いします。生涯学習で、一人ひとりの願いや思いを充実する生涯学習の推進ということで。

○関口教育委員長

たびたびすみませんけれども、これも文章でうまく整理されているんだなというふうに思います。特にこの中での部分では最後の行に書いてあるんですけども、公民館機能の充実と市民サービスの向上を図ることが課題だということになっているんですけども、全くそのとおりで、運営の制度も変わりましたので検証して、さらに充実するような形にしていくというのが課題だろうと思います。その住民サービスというのは、その上にありますように、地域に密着した公民館の運営ということになるんですが、ここでは公民館の機能となっていますけれども、前回には市民プールとか図書館とか出たと思うんですが、やっぱり図書館も運営システムが変わりましたし、ですから美術館とかそういうのも含めて機能の充実というか、市民サービスへの拡充というか、そういうのを最小経費でどうし

ていったらそういうことが図られるのかという検討も必要なのかなというふうに思います。

○山口市長

これについて、事務局、補足はありませんか。特に公民館については機構が変わったわけだから。

○鈴木中央公民館長

公民館につきましては、委員の皆様ご存じのようにこの4月から中央公民館を統括といたしまして、14の公民館にそれぞれ非常勤特別職の公民館長1名と非常勤特別職の社会教育指導員2名ということで新たにスタートいたしました。これによりまして、住民の方が主体となった地域の特性や地域の特色を出しながら今後運営ということで今行っているところでございます。

今回、新たな運営で行っておりますが、これにつきましては常に検証作業しながら改善していきたいなというふうには考えております。以上です。

○山口市長

そのほかございませんか。

○武藤文化課長

今ほど図書館・美術館という関係も出ましたので、所管の文化課のほうから述べさせていただきたいと思います。

図書館・美術館の運営体制というようなことで、最小の経費でサービスを図るというお話でありましたけれども、図書館・美術館につきましては平成22年から指定管理者制度を導入しまして現在も運用しているところでありますけれども、指定管理者制度ということで、それこそ民間のノウハウを使った、そういったものを生かしてサービスの向上も今後図っていきたいというふうに考えております。以上です。

○山口委員

委員の山口です。

まず、2つほどお話ししたいんですが、1つは今ほどの図書館のことですが、文化施設として、喜多方市美術館はとても素晴らしい施設だと思います。ただ、図書館は、私もたまに行くんですが、やはり建物が非常に老朽化している部分があるのかなというふうに感じます。できるなら、図書館に子供たちが、小学生や中学生も活用できるようなスペースだとか書籍をそろえとか、そういうような対応も今後検討していただきたいと思います。まちの中の文化というのは、図書館とか美術館で結構、あと体育施設ももちろんですけども、そういう文化的な面での充実をもっと図っていただけたらいいなというふうに思います。実際に、小学生もですが、中学生あたりは図書館を利用するということは余りないんですが、ただ、すばらしい建物だったり設備であればまたそういう経験もできると思うので、考えていただきたいというふうに思います。

2つ目は、生涯学習関係で、人づくりの指針、すばらしいものがあるのですが、小学校では本当に資料を使いながら授業で取り組んでいらっしゃるようです。ただ、中学生になるとなかなかそういうのが活用されているのかなというのがちょっと疑問に思うところであります。まして、市民の方々にもその浸透がまだまだ整っていないような感じがするので、人づくり指針の啓発のためにもっと力を注ぐことが大事だなというふうに強く感じます。

大人向け、子供向けというんじゃなくて、例えば小学生の場合は学校でも活用をいろいろ学習しているようだけれども、中学生・高校生対象に、市民の方と一緒にそういう学習するとか何か活動するような企画があったら盛り上がるのではないかなというふうに感じております。以上です。

○山口市長

ただいま貴重なご意見、特に図書館、それから生涯学習の中身についても中学生並びに市民の活用が十分でないといったご意見でありました。

ただ、これは今すぐというわけにはいかないけれども、図書館等々のことについてもまだ本格的な動きにはなっていないんですが、あり方をあのままでいいのかということを検討し始めましたから、集合的な施設の中でとか、それから利便性とか、勉強もできるような図書館とかいろいろな要望があるものですから。

関連、何かありませんか。

○芳賀教育長

今、山口委員がおっしゃったことと全く同じ思いで私もおりました。市長からもお話いただきましたけれども、図書館整備などについては当然、中長期的な計画も必要ですし、それに伴う予算的な裏づけも必要ですので、来年、再来年にすぐということについては難しいかもしれませんが、ただ、市長おっしゃっていただいて非常に心強く思ったのは、今後、山口委員がおっしゃったような方向で市の課題として取り組んでいきたいということをおっしゃっていましたので、非常に心強く思ったところであります。

あわせてまして、喜多方市の人づくりの指針について、これは喜多方市ならではのものです。これはやっぱり誇れるものでありますので、子供たちはもちろんですが、広く一般市民の方々に対しても啓発を図りながら、こういったものが本当に喜多方市の人材育成のために十分に活用できるように、私ども教育委員会事務局としても頑張って取り組んでいきたいと思っておりますので、市の後押しもいろいろな形でお願いしたいと思っております。以上です。

○山口市長

大変貴重な、そしてまた積極的なですね、いただきましてありがとうございました。

ほかにありませんか。

○関口教育委員長

質問みたいな形になりますけれども、ことし図書館、全国で表彰されましたよね、活動の中で。全国の中でどういうことが評価されたのか、その辺を具体的にお話ししていただければ改めてありがたいと思います。

○山口市長

お願いします。

○武藤文化課長

文化課長です。

図書館といいますと、一般的には貸出業務が主たる事業になるんですけども、今回表彰をいただきましたのは、貸出業務以外にも図書館の利用を促進するようなさまざまな企画展なども積極的に取り組んだということで、広く言いますと、小さい子供さんからお年寄りの方までも対象とした事業運営をしたということとで他の見本となったということでの表彰というふうに伺っております。

○山口市長

いいですか。そのほかありませんか。

それでは、ほかになれば、項目の4について入りたいと思うんですが、説明をお願いします。

○関口教育委員長

学術文化の振興の中で、私もさっき小中学生の社会参加の機会をということで申し上げましたけれども、伝統文化に携わる者の高齢化や後継者不足というのは間違いないと思います。祭りもできなくなってきたという地域があちこちいっぱい聞いています。ですから、こういうところにもう既に、地元の小学生・中学生はうまく「活用」というとちょっと言葉は悪いんですが、参加してもらってやっている部分もあると思うんですけども、ここでもうちょっとよい知恵を出すとか、もうちょっとシステム化するとか、学校の授業、総合学習とかなんかの中でうまくリンクするようなことで、社会参加とあわせてこういう部分の育成もしていったらどうなのかなというふうに思っていました。

現在もそういうことをやっているところ、結構多いんでしょうね。取り組んでいる例とかありましたらお願いします。

○武藤文化課長

文化課長です。

子供たちが伝統芸能関係にかかわるということで私が今思い出せるのは、慶徳稲荷神社の御田植神事、これは慶徳小学校さんのほうでずっとかかわりを持っていただいて行事に参加していただいております。

もう一つ私が目にしたのは、塩川の中ノ目の念仏踊り、これも太鼓をたたく人が少なく、子供たちが実際に太鼓をたたいているというようなことを目にしております。

私がつかんでいるのはその程度でございます。

○芳賀教育長

今の件に関連してですけれども、委員長さんおっしゃったように学校教育を通して人材育成という部分もあるかと思います。でも、なかなか学校教育で難しいので、これは地域のほうで地域の方々が子供たちへの伝承というか、技術指導も行っていていただきながらやっていくことが大事かなと思っています。そういった意味では、彼岸獅子なんかは子供たち、参加していますね。

今ちょっと文化課長からお話がありました中ノ目の念仏踊りについては、これは後継者育成という意識よりも郷土の伝統・文化に触れさせるということで、姥堂小学校の校長が学校経営の中に位置づけているんですよ。中ノ目地区の子供たちに念仏踊りに触れさせるということははっきり言っていましたので、そういった意味から言うと、それぞれの地域である伝統的な文化などについては可能な限り学校教育の中に取り込めるものについては取り組むような指導・助言を今後していきたいなと、そういった事例もありますので、そんなふうに思っているところです。

○山口市長

喜多方の祭りをとって、祭りばやしのあれも、これは学校でなくて地域で、それからあと山車の24台も出て、あれは子供たちがいないとあんなに盛り上がらないわけだから、昔からの伝統を地域でもって地域ごとに競いながら、あれも大切ですね。

○山口委員

山口です。

今のお話につけ加えてなんですが、各地域に住む子供たちが伝統文化・芸能を継承するというのはもちろんこれからもどんどん取り入れていただきたいと思うんですが、さらに喜多方市に住む子供たちで、そういう芸能がない地域に住む子もいると思うんですね。だからそういう子供たちにも芸能に参加する機会、例えば夏祭りに向けて地域で練習会がいついつあるといったときに、喜多方市内であれば移動は可能だと思うんですね、保護者の送り迎えは必要かもしれない。ただ、子供たちにいろいろな地域の文化を経験させるという意味で、その地域にかかわらず、よその地域に行って例えば彼岸獅子だとかをやってみたいと思っている子供がもしかしたらほかの山都地区とか高郷地区にもいるかもしれないので、いろいろな子供たちが経験できるチャンスをつくっていただけたら意外と集まるんじゃないかなというふうに感じました。以上です。

○山口市長

そのとおりですね。この実例も、私から恐縮なんですが、例えば8月の祭りばやしのあれ、みこし、これは熱塩温泉にはみこしの立派なのがあるのね。ところが子供がいなくなりました。ところが、上高のほうには住居もふえて、若い夫婦も。子供がやりたいと。それを熱塩から持ってきているんですよ。ことしで

3年目かな。それで、それも生かして、そういう事例もあるんです。これはいいことですね。

それからあと、彼岸獅子とあったんだけど、これも私、そんなに深く調べたわけではないんですが、話を聞くとところによると、下柴の彼岸獅子って有名なんだそうですね。それで会津に普及したのも下柴の彼岸獅子からなんだそうです。北会津とか皆あるでしょう。方々にあるんですが、これは下柴。だから、昔の獅子とかああいうところも伝統で受け継がれて、そこで子供たちがいないとだめなんですよ。幣舞小僧なんていうのは子供、小学校になる前かな、あれがいないと彼岸獅子のあれにならないんですよ。だから大変貴重な今のご意見で、これは地域とか学校とかが育てて、そして継承していくことも民俗文化の点でも非常に大切だと思うんですよ。

○山口委員

喜多方も合併したというところで、そんなところの各地域の粋を取って、子供たちにもっともつつながりを持たせたらいいかなと思いました。

○山口市長

そのとおりですね。芸術なんていうと難しく考えるけれども、本当に今まで立派な芸術、それを継承するということは非常に大切なことだと思うんですね。

あと、これも芸術・文化のあれなんだけれども、要望があるのは雄国の竹細工、後継者がいなくなっちゃって、それが昔は、こんなことを言ってはなんですが、かごとか、それは腰かごなんて、柿もぎとか何かには必ずないとだめですね。あるいはざるの類だとか芸術品ですよ。ところが後継者がいないので、それを市で何とか全国からでもいいから募集して継承する若者を育ててくれないかということなんです。それは根曲がり竹を雄国山のふもとから切ってくるんですよ。その竹ですから、それでいろいろなざるだとか腰かごとかもみ通しとか、昔からあったでしょう。それをつくっているんです。大切なことなんですね。

○山口委員

昭和村のからむしと同じで。

○芳賀教育長

今おっしゃったように、芸術・文化という言葉にこだわらずに、その地域地域で生活に密着したりするのもありましたね。先ほど念仏踊りも挙げましたし、御田植えもあったし、彼岸獅子などもあったんですが、そういったことだけでなく、市長おっしゃったように、私たちの生活に密着して古くから親しまれてきたものとか、そういったならわしもありますね。そういったものを子供たちにも地域の方々にも目を触れていただくということは大事だなと私も思っているところです。

塩川町だって子供たち、祭りばやしだってやっていますし、それからきょう小島議員さん来ていますけれども、堂島地区では童謡教室というのをやっていて、

そこの地域の方全員というか、いろいろなお年寄りも出てきて昔話をやったり、伝承遊びを子供たちに体験させたりということもなさっているわけですね。これはどちらかというと、文化面よりも生涯学習との絡みがありますけれども、しかし地域の伝統文化というか、そういった自分たちの生活に密着したようなことについて何らかの形で普及というか取り組みをしていくということは、やっぱり今お話を聞いてみて改めて大事だなと思っているところです。

○山口市長

ひめさゆり踊りなんて、みんな年とってしまって、こんなになってね。ところが、加納小学校で学校で教えている。観覧者が、いやいや小学生までこうやって継承するのは大したものだと。そうなんです。

○遠藤委員

中学校でひめさゆり讃歌を披露したり、伝統的にもうひめさゆり祭り始まってから恐らくやっていると思うんです。伝統行事にいずれなるであろうと思います。

○山口市長

ほかになれば次に移りますが、これらの現状と課題が詳細に示されましたが、大綱ではこれをもとにして課題解決に向けた方針、あるいはその方針というのは、すなわち今後の本市の教育のあるべき姿をあらわしていくことになるわけであり、大いに参考とさせていただきます。ありがとうございました。

次に、大綱の策定スケジュールについてであります。これを協議いたしたいと存じます。

資料3をごらんいただきたいと思うんですが、本日、おおむね課題等、留意すべき事項は見えてきたと思うんですが、次回には大綱案をお示しできるものと思いますので、今後2回程度の協議を経まして、そして大綱を決定していきたいと考えております。

なお、大綱の策定期限は今年度末と考えておりますが、このようなスケジュールでよろしいかどうかご意見を賜りたいと思います。これについて説明はいいね、資料で。これは資料の3、大綱スケジュールについてと。

○関口教育委員長

スケジュールの進め方については別に異論ありませんけれども、3回と4回のおおよその目標の時期は、もし示されるのであれば予定を示していただければ幸いです。

○渡部企画調整課長

今後のスケジュール関係であります。まだ日程調整等入ってまいりますけれども、3回目につきましては大体11月くらいには開催をしたいというふうに思っております。4回目につきましては、年が明けましてから2月くらいには開催をするというような形で進めてまいりたいというふうに考えているところであります。

○山口市長

ほかにございませんか。

〔「なし」の声あり〕

○山口市長

特になかったら、きょうの議題につきましてもご了承いただきましたので、教育大綱は、ただいま時期の点もございましたが、今年度末ということは2月ですね、最終的に。説明ありましたように、2月末を目途として策定いたしたいと存じております。

以上で本日の協議事項は終了いたしました。

次の開催日時は追ってご連絡申し上げます。

本当にご協力ありがとうございました。

これからもよろしくお願いします。

○渡部企画調整課長

市長、ありがとうございました。

次第のその他に入りますが、事務局からは特にございませんが、委員の皆様方からございましたらお願いしたいと思います。特にないでしょうか。

○山口市長

これ、全く別なんです。文藝春秋の毎年9月は特集号で芥川賞の発表なんです。その9月号のグラビアとして北海道の富良野のラベンダー、それから長野のソバの花、それと三ノ倉、グラビアで出ましたので、これは予期しなかったですね。

○山口委員

開いたらありました。ちょうど芥川賞と一緒に。

○山口市長

そうそう。それで、そのあれも夏の花街道に行くという、そういうあれなんですよ。これは頼んだわけでも何でもなくて、あそこのあれは牧野だったものですか、スキー場ね。20年も過ぎたからナラの木は出始まった。この辺で言うカヤですよ、ススキ、あの株は大きくなっちゃって荒れるばかりだった。ヒマワリでもまいたら何とかなるかと思って、金はないからと言ったら、職員が努力してくれて、金もあれですが、私イメージしたのは普通のヒマワリ、太くないのがあるんですね、家の前に。あれをイメージしたら、あれではだめですと。まず台風なんか来たらひっくり返っちゃう、重いから。それで背が高いでしょう、2メートル以上になるから。それからもう一つは、在来のもものが密集しますと迷路になって、子供たちなんかはわからなくなっちゃう。それから、問題は今度、後始末、その後、菜の花にかえなくちゃならないから、その後始末はなたで切るぐらいでないと、トラクターで切ってすき込むわけにはいかないと。なるほどなど。そこで、花専用の品種があるというんですよ。それがあの花。1メートル50までいかない、それはF1、一代雑種だというんですよ。だからその種をまけば、メンデ

ルの法則と同じで分離しちゃいますから、種屋はもうけるんだけれども、一代雑種のあれを。そんなあれなんですね。

○山口委員

そうですね、確かに三ノ倉のヒマワリもいろいろな雑誌で紹介されますよね。市でつくっているもの以外のも見ます。

○山口市長

観光誌、何だっけ。あれ第1位になった、観光の、何だっけ。ちょっと忘れた。（「じゃらん」の声あり）ああ、そうそう。4年目になったんですが、2年目の年に、私ちょうど土曜日だったんですが、市役所に仕事があっていたときに、「いや大変だ」なんて10時ころ電話があったのね。何大変だ、何起きたのかなと。そうしたら、三ノ倉の道路が渋滞して動かないというわけ。「そんなこと、うそだべ」と。いや、うそどころでないと。渋滞するほどね。本当なんですよ。それも反省点として去年、特にことはトイレ、それからシャトルバス、それから駐車場、これはできる限りのことをやりました。

それから、教育委員の先生にこれもまた釈迦に説法なんです、山が今荒れて、藤づるだとか手入れしないとね。それから、木材が安いとか外材に押されているとか。だけれども、我々小さいころもそうなんです、木を切ったら木を植える、と、造林。ところが、会津では手入れも大変なんですね。中通りとかほかの地域と違って雪が降りますので、杉を植えたときから十五、六年ぐらい、20年近くやらなくてはならない。杉起こしという余計な仕事がある。こういうものを通じて先祖代々みんな先人はやってきて、立派な杉の木なんかあるんだけれども、それが今、電気のバイオマスのあれだとか、それはいいですよ。けれども、その次を植えないんですよ。そうしますと20年、30年、50年過ぎると山が荒れちゃって洪水だとか大きな水源涵養のあれがなくなったり大きな問題が生じるんだと思うんですね。

それで小学校の育樹祭、これは農林課を中心に学校と協力してやるんですが、育樹もいいけれども、ドウダンツツジとか、それよりも有用な木材になるようなものを植えて、そういったものを手入れして、それを小学校の時代から緑の少年ですね。

去年こういうのをやったんですよ。場所は三ノ倉ですが、これは森林林業部って農林事務所の応援も得て、トチの実をある程度発芽させて、それを小学校の生徒にまいてもらったの。そうしたら今1メートルぐらいになっているんですよ。これは広葉樹。それからあとブナも植えてもらった。もちろん桜とかね。

今後、杉花粉だ、花粉症大変です。けれども、福島県の林業試験場で花粉症軽減できるような品種ができたんですね。そのようなものも今度、本当に植樹祭、それから森をつくる、こういうことでもっと森づくりについて小学校の子供たちのころから山の大切さということを体験させるためにもぜひとも学校の協力を

得て、特に教育委員の先生方もいろいろとご指導いただいて、そんなことで喜多方の森づくりというの、全国に例のないようなあれをこれから展開したいと思っているんですよ。（「今、学校林を持っている学校は何校かあるのかな」の声あり）ありますよ。あるけれども、喜多方でも学林と称して、我々も小学校のとき杉植えをやりましたよ。熱塩にも喜多方にもあるんですよ。それから山都は学校林はないんだっけかな。（「あります。学校林としてはある。ただ、手入れは行き届いていないです」の声あり）どこでもそうなんだ、手入れが届いていない。学林と称して。だから昔、先人は、きょうの学校の話でないけれども、学校の建てかえのときはこの材料を使うと、それから始まっているんですね。

それで、これもあれなんです、熊倉に、ごらんになったと思うんですが、体育館を地元の杉材で、特に飯豊スギを中心として、あれはなかなか好評ですから。もう建築関係で強度とか何かは絶対大丈夫ですから、専門家に依頼して。だって法隆寺が、2,000年はたたないけれども、世界に冠たる木造建築で、ああいう証拠もあるわけだから、だから熊倉の体育館等も大変喜ばれております。地元の大工も、仕事がないとき雇用にも助かる。仕事ないので建前、近ごろやったことない。そのはずですよ。大手のあれとか、そして建材が皆、今あれでしょう、余り大工の。だから、本当の材料で、本当のというか集成材でなくて、大工の手で、喜多方の大工組合が建てたんですよ。

余計なことを申し上げましたけれども、これもひとつ教育委員の先生方のご協力を得て森づくり、それからまた木のよさ、それからそれは林業振興につながるわけですから、健全な山をつくると、維持するということは大切だということで、大変ありがとうございました。

これをもって今回の会議を閉じたいと思います。ありがとうございました。

○渡部企画調整課長

どうもありがとうございました。